

フランツ・シューベルトと  
ロマン主義時代の幻想曲

白石知雄

ロマン派の聞き所は  
過去の講座で  
解説済み。

今回は音楽・文学・  
思想・社会の関係

シューベルトというウィーンの作曲家  
をより大きな文脈で考えること。

ロマン主義は文学運動として始まった。

romanticの語源

romanticはclassicの反対

語

romantic = ロマンズ語、俗語

→ 妄想、空想、でっちあげ



クラシック

ロマンティック

ラテン語・公用語

俗語

標準・規範・手本

逸脱・妄想・混乱

ギリシャ・ローマ

中世

フランス革命後の社会不安で  
若者文学の流行語になる。

# 文学におけるromantic

- 現実への絶望。理由のない不満
- 放浪、引きこもり（日記）の現実逃避
- ゲーテがきっかけとなる自殺ブーム
- 希望・ユートピアの痕跡 = romantic
- 芸術はユートピアからの希望の光

# 音楽におけるromantic

- ロマン主義文学者による音楽論
- オペラ、歌曲のテキスト
- 文学青年による音楽改革

# シューベルトとロマン主義

- 歌曲のテキスト
- 友人たち（ウィーンの知識階級）の感化
- ベートーヴェン崇拜

幻想曲は意外に多く、しかも  
人生の節目に書かれている。

- 1810-1823年：習作あるいは本人未出版  
(D1, D1b, D2e, D9, D48, D605a)
- 1822年25歳：幻想曲ハ長調
- 1827年30歳：ヴァイオリン幻想曲 ハ長  
調
- 1828年31歳：連弾の幻想曲 ヘ短調

# 幻想曲へのフォーカス

- 野心的な表現。
- 歌曲などの引用という作品解釈の有力な手がかりが書き込まれている。

シューベルト

幻想曲八短調 (1811)



# 幻想曲八短調の特徴

- 自由な構成（即興的、連想的）
- 内向的な表情

# モーツァルトの引用

自由で内向的な表現は  
オリジナルではなく  
18世紀に由来する

# シューベルト以前の幻想曲

- バロック時代（17世紀）：即興演奏
- 啓蒙主義時代（18世紀）：心情吐露

Carl Philipp Emanuel  
Bach (1714-1788)

C.P.E. バッハ

幻想曲 嬰へ短調

「C.P.E. バッハの思い」 (1787)

聴き手を感動させるためには  
自分が感動しなければならない。

C. P. E. バッハ 「クラヴィア奏法試論」

# 啓蒙主義

## 理性と対話

- 他者との対話：「公」的政治
- 自分との対話：「私」的感情



# 啓蒙主義時代の芸術

- 一人称文学（書簡体・日記体）
- 旋律美と感情表出

私的感情の表出は  
ロマン主義ではなく  
啓蒙主義

# 感情表出としての幻想曲

C. P. E. バッハ



W. A. モーツァルト



F. シューベルト

ロマン主義の  
幻想曲の特徴は？

# 幻想曲とソナタの融合

従来の幻想曲は  
内輪で楽しむ音楽

幻想曲風ソナタは公的な場所で「私」  
を語る19世紀のロック

- 1801年 ベートーヴェン 幻想曲風ソナタ
- 1822年 シューベルト 幻想曲 八長調
- 1838年 シューマン 幻想曲 八長調
- 1839年 リスト ソナタ風幻想曲



ソナタでも幻想曲でもかまわない、  
良い音楽でさえあれば！

ロベルト・シューマン（1839）

これは19世紀の前衛  
としてのロマン主義の  
典型

感情移入ではなく、  
感情の越境が重要

シューベルト

幻想曲 八長調 (1822年)

# 音楽的特徴

- ソナタ風の4楽章構成
- ひとつのテーマにもとづく変奏曲

# 形式の概要

- 第1楽章 ソナタ形式
- 第2楽章 自由な変奏曲
- 第3楽章 スケルツォとトリオ
- 第4楽章 フーガ

# 主題の変奏

- 第1楽章の冒頭＝ソナタの第一主題であると同時に全体の統一テーマ
- 第4楽章でフーガ主題になる。
- 第2楽章へ向けた「スローモーション」
- 第2楽章自体がこの歌の変奏曲

# さすらい人幻想曲の特徴

- ソナタ風の四楽章構成
- 主題の変奏による自由で即興的な展開



歌曲「さすらい人」の引用

# シューベルトの器楽作品 における歌曲の引用

- 1822年 幻想曲 ハ長調 ← 「さすらい人」 (1821)
- 1823?年 ピアノ五重奏曲 イ長調 ← 「ます」 (1816)
- 1824年 弦楽四重奏曲 イ短調 ← 劇音楽「ロザムンデ」 (1823)
- 1824年 弦楽四重奏曲 二短調 ← 「死と乙女」 (1817)
- 1824年 「しぼめる花」 変奏曲 (1823) ← 「美しき水車小屋の娘」
- 1827年 ヴァイオリン幻想曲 ← 「私の挨拶を」 (1822/1822)

# ロマン主義の形而上学

- 諸芸術は共通の「詩的理念」（創造のイデア）から派生した。
- 「詩的理念」は現実世界の理性（言語）や感覚を超越している。

# 詩的理念

(創造のアイデア)



文学

絵画

音楽

# 「さすらい」の理念



歌曲

幻想曲

私はどこに行っても、よそ者だ。

「お前のいない所に幸福がある！」

「さすらい人」 (1821) より

ユートピア



現実

これは革命後の不安  
とも通底する！



幻想曲へ短調の場合

# 形式の概要

- 第1楽章 ソナタ形式？
- 第2楽章 三部形式？
- 第3楽章 スケルツォとトリオ
- 第4楽章 フーガ

ソナタの枠組みは崩  
れかけている。

注目したいは同時期  
の歌曲との関連。

引用ではないが  
アトラスと関連する

# アトラス動機

- 幻想曲
- ピアノソナタへ長調
- 歌曲「アトラス」

この苦しみの世界を私は背負う。

永遠の幸せ、  
さもないければ永遠の悲哀。

「アトラス」 (1828) より





# アトラス動機の特徴

- ユートピアへの憧れではなく、失樂園の受苦。
- 音の身振りを媒介にした伝統とのつながり。（サラバンド／断定）

# アトラス動機と伝統

- エグモント序曲（サラバンドのリズム）
- モーツァルト「レクイエム」（？）

# 1828年のシューベルト

- 伝統との結びつきの確認
- 予感から意志へ

# アトラス動機の含意

- ベートーヴェンの死（時代の終焉）
- 王政復古＝フランス革命の挫折
- 「終わり／解決」の否定を予感・暗示するのではなく、自らの意志で受け入れること

# 31歳のシューベルト

- 晩年 = 老年ではなく青春の終わり
- 幻想曲風ソナタを作曲した31歳のベートーヴェンに追いついて終わる。
- 次世代のロマン主義は、シューベルトを継承したのか、シューベルトから再び「青年の音楽」へと後退したのか？